

入 来 神 舞



入来町の大宮神社の例大祭に奉納される「入来神舞」の舞の種目は三六番あり、それぞれは五種の神楽曲のうちのいずれかを使って舞われる。

舞は大別すると、①古代以来の壤災呪儀（じょうさいじゅぎ）的舞（巫女舞・火の神舞・剣舞等）②稲作儀礼に関する舞（杵舞・田の神舞等）③岩戸神楽舞（天の岩戸の神話劇）に分けられる。

楽曲は五種のうち四種は優美な律旋で、残りの一種は荘重な呂旋（りよせん）の曲で鬼神楽（きじんがく）といい、鬼神面をつけた鬼神が出る時に用いられる。

また、神舞の二二番の十二人剣舞では、奈良時代の前後にかけて隼人族が皇宮十二間の警衛に当たったことから、この中で国歌君が代が歌われる。このため、国歌君が代の由来を見ることが出来るといわれている。

このことから入来町無形民俗文化財として昭和49年（1974年）に指定された。令和2年4月に県無形民俗文化財に指定された。

【奉納・披露】

日程：毎年11月23日（例大祭）、毎年12月31日 0時より（除夜祭）

場所：大宮神社（入来町浦之名）